

# 鬼が仏になった里「くにさき」(大分県)



日本遺産

## 自然への畏怖が信仰の対象へ 鬼なる「仏」の里で癒しの旅を

節分の日、豆をまいて鬼を追い払う風習が日本各地で見られますが、大分県北東部の国東半島では、鬼は幸福を運ぶ使者。鬼が舞い、人々と酒を酌み交わす「修正鬼会」をはじめとする鬼にまつわる伝統文化は、2018年、日本遺産に認定されています。



表情豊かな鬼の面。  
国東半島のキャラクターにもなっています

修正鬼会は1200年以上の歴史があり、  
重要無形民俗文化財にも指定されています



鬼の棲み処があったといわれる鬼城



鬼とご縁が結べる鬼朱印も人気  
※写真は以前開催時のもの



修正鬼会を終えた鬼と酒を酌み交わす  
ひととき

### 幸せをもたらす鬼を招く

大分県北東部の国東半島は、両子山を頂点に半島一帯が火山地形による円錐形を成し、その荒々しい特異な景観から、古代には鬼が棲む異界「大魔所」とされてきました。また人々は地震や天

災をもたらす自然に畏怖も感じていたのでしょう。鬼は、自然ともある力の象徴にもなり、修行僧らを通して次第に信仰の対象となつていきました。鬼が棲む洞窟内の修行場「岩屋」を巡ること

は「峯入り」と呼ばれる修行となり、また国東の6つの郷(集落)には65カ所の寺院が開かれた「六郷満山」が形成されるなど、この地には「鬼」を中心とした独自の信仰文化が築かれていったのです。

旧暦1月7日頃に開かれる

「修正鬼会」はその代表で、国東市の岩戸寺と成仏寺、豊後高田市の天念寺で行われます。とくに国東市の人々は、舞の奉納を終えた鬼の来訪を幸せの神として、心待ちにしています。

### 鬼朱印巡りやリトリートの旅を

六郷満山日本遺産推進協議会では鬼に関する寺や岩屋、峯入りの道など、様々な見どころをテーマに「鬼が棲む景勝地巡り」や山岳トレイル「プチ峯入りコース」などモデルコースを設定。「御朱印を求める30〜40代の女性客をターゲットに、自然の中でのリトリート(癒し)の旅を都市部の客層に提案していきたい。寺院が保存する鬼面が一般公開される春と秋も狙い目」と豊後高田市教育委員会文化財室では話しています。



峯入りの様子



鬼の棲み処につくられた修行場「岩屋」



熊野磨崖仏は国重要文化財に指定されています